

# Patent attorney

## 私の目指す弁理士像

• No. 89

会 員

野 川 夏 香 •

### 「発明者との出会いを大切にしたい」

知財の仕事に携わるようになって5年が経ちました。知的財産に関わる仕事を始めた時、自己の発明によって会社を興して発展させている発明家の方々に出会いました。

新しい発明のお話を聞くと、私もわくわくして楽しくなりました。そして、その発明を権利化する手伝いをしたいと思いました。

今の私の仕事の原点がここに 있습니다。

私は、技術開発の仕事から特許等の新技術動向の調査の仕事を経て転職し、企業内で知財を扱う仕事を始めました。幸い、化学、物理、材料、機械と多種の分野に関わることができましたので、これを生かし、また広げて、たくさんの発明者とお会いしたいです。

また、発明を明確に捉えるという観点からも、紙のやり取りだけでなく、話を聞くことがより望ましいと思っています。

だから私は、発明者との対話を大切にす弁理士を目指します。

### 「研究者と企業の橋渡しをしたい」

調査の仕事をしていた頃、大学の先生方に話を伺うことが時々ありました。その際気づいたのは、先生側も企業側も、互いにパートナーを求めながら出会えていないことが多いということでした。(当時まだTLOは整備されていませんでした。)

その後、直接出願をする企業内で、産官学や産官などの共同出願の明細書を作成する立場になった時、共同で発明することによる相乗効果を実感しました。また、ひとつの発明が形になり、そし

て、さらなる発明がそこから生まれてまた形になるというサイクルが生まれ、共同発明者の方々に喜んでもらえ、とても嬉しかったです。

これらの経験から、コーディネーターの働きや技術的関わりのできる弁理士となって、求めあう研究者と企業を結び(もし可能なら自分も参加して発明を完成し)、発明から権利化、そして活用、新たな発明といった連鎖を作る手伝いができる弁理士を目指していきたいと考えています。

### 「知財係争の解決に関わりたい」

明細書等の手続書類の作成・中間処理・年金管理・契約等の業務をしてきましたが、係争には関わったことはありませんでした。

しかし、今後係争が生じたときに適切な解決ができるように、さらに勉強し経験を積んでおきたいと思っています。

### 「著作権関係に強くなりたい」

話は全く変わりますが、私は日舞が好きで、師範にもなった道楽娘でした。そのような個人的理由もあり、古典芸能の著作権や実演家や振付家の権利の現状に興味を持っています。

著作権関係に明るくなって、将来、古典芸能の保護の手伝いができたらいいなと思っています。

理想的な弁理士になるためには、これから、より多くの方に話を伺い、勉強し経験を積んで行くのが、なにより必要と思っています。どうかよろしくご指導下さい。